

令和7年度 学力向上指導改善プラン

学校教育目標 「夢や希望を実現する 心豊かにたくましく 共に生きる生徒」の育成～ウェルビーイングを実現する学校を目指す～

目指す子どもの姿 夢や目標を語れる生徒

- ・自ら学ぶ力をもった生徒【知】
- ・自分や周りの人を大切にできる生徒【徳】
- ・何事にもねばり強く取り組み、挑戦する生徒【体】

変容を目指す資質・能力 a 知識及び技能 b 思考力、判断力、表現力等 c 学びにむかう力、人間性等 d 情報活用能力 e 課題解決能力 f 学び続ける姿勢 g コミュニケーション能力

三 田 市 立 藍 中 学 校
 学 校 長 鯉 ノ 内 克 枝
 研 究 主 体 【 研 究 推 進 委 員 会 】

前年度		継続性	4月 (※全国学力・学習状況調査の結果などを受けて年度途中で変更する場合は削除、追記部分を赤字で修正)		2～3月 年度末評価			
学力向上に向けた重点的な目標	年度末評価 (前年度の成果と次年度に向けた課題等)		評価	学力向上に向けた重点的な目標 (変容を目指す資質・能力)	成果となる目標 (指標となる数値等)	具体的な行動目標 (成果目標達成のための具体的な手立て等)	教員評価 (今年度の成果と来年度に向けた課題等)	評価
授業改善および学習習慣の定着	◆「学校評価アンケート」の「学校は、学力向上の取り組みがされている」に対する肯定的回答…生徒88.9%、保護者69.3% 生徒保護者ともに学力向上の取り組みがされていると実感できるように努めたい。 ○「学校評価アンケート」の「先生は、授業がわかりやすいように教え方を工夫している」に対する肯定的回答…94.0%	A	新規	学力向上に向けた取り組みの推進(b・c・f)	①全国学力学習状況調査の各教科における平均正答率を前年度以上にする。 ②「学校評価アンケート」の「学校は、学力向上の取り組みがされている」に対する肯定的回答の割合を前年度以上にする。	・各単元の最初に、身に付けるべき力と評価について明示し、すべての生徒がB評価以上に近づこう「わかる授業」を目指し、授業改善を行う。 ・黒板等に毎時間「めあて」「学習の流れ」を明示する。生徒に「学習のめあて」を意識させ、「学習の流れ」を明確にすることで、主体的に学ぶ姿勢を培う。また、「振り返り」を書くことで、学習内容の定着と学ぶ意欲の向上を図る。 ・資料を読み解く機会を多く取り入れ、資料を比較したり自分の考えを構築したりする体験を大切にす。 ・目的や意図に応じて、内容の中心を明確にして、文を書く力を身に付けさせる。		
人権教育を基盤にした小中連携	○学校園所連携として各校での取り組みの成果や課題を共有し、めざす子ども像を設定して目標達成に向けて取り組むことができた。授業参観の機会や合同研修の場を持ち、教師間の交流や連携を深めることができた。小学校での学びを中学校での学びへ活かし、継続していけるよう取り組みを進める。	A	→	人権教育を基盤にした小中連携(b・c・g)	①中学校区3校による、交流研修の充実(三校研)。 ②三校研や学校園所連携の機会を年間3回以上もつ。	・人権教育・道徳教育研修を共に行う機会を持ち、共通認識を深める。 ・小学校教職員対象に、中学校での進路指導の実態を説明し、中学校卒業を見据えて、小学校から養うべき学習での姿勢や身に付けるべき力を共通理解する。 ・全国学力・学習状況調査の合同分析を三校研で実施し、その後合同研修会を実施し、学習指導や生活指導に活かす。 ・小中教員の定期的な交流を行い、共通理解のもと学習指導や生活指導に取り組む。 ・学校園所連携として授業参観の機会を持ち、教師間の交流を図り、連携を深める。		
家庭学習の充実	○◆「学校評価アンケート」の「家庭学習の習慣が身につけていると思う」という質問に対し、肯定的回答が3年生で86.0%であった。3年生は前年度の肯定的回答が44.9%であり、大幅に増加している。しかし、1年生は55.6%、2年生は57.9%、保護者は58.0%という結果であり、引き続き、家庭学習の習慣が身につくよう取り組んでいく必要がある。	B	→	家庭学習の充実(d・e・f)	①「学校評価アンケート」において、「家庭学習の習慣が身につけていると思う」という質問に対しての肯定的回答が全学年、保護者ともに前年度以上になるようにする。 ②家庭への啓発及び連携により、家庭学習の定着をより進める。	・家庭学習の定着を図るため、校区の小学校と連携し、発達段階に応じた学習習慣を身に付けられる環境を整えていく。 ・予習・復習の習慣が身につくよう、授業内容を改善する。		
読書活動の充実	◆「学校図書アンケート」では、「1か月にどのくらいの本を読むか」という質問に対し、「0冊」という回答が、1年生46.9%、2年生50.0%、3年生45.0%という結果であった。今後も読書活動の推進に取り組んでいく。 ○朝読書等を通して、本に親しむことができた。	B	→	読書活動の充実(b・d)	①図書室の貸し出し本数を前年度以上にする。 ②「学校図書アンケート」における「本が好きか」、「1か月にどのくらい本を読むか」という質問に対する肯定的回答の割合を前年度以上にする。	・国語の授業で身に付けた読む力を活用し、読書活動の推進に取り組む。 ・読書の時間を確保したり、図書委員会の活動を通して学級文庫の設置や図書室利用の呼びかけなどを活発に行うことにより、読書のしやすい雰囲気をつくる。		
学習環境の整備と学習意欲の向上	○「学校評価アンケート」の「どの授業にも真剣に取り組んでいる」に対する肯定的回答…92.3% ○タブレットを用いて各自が問題演習に取り組む朝学習が定着しており、朝学習の時間以外にも自主的にタブレットを用いた学習を進める生徒が増えている。 ◆発達段階に応じた情報モラル教育やタブレットの適切な利用、授業のユニバーサルデザイン化を推進する。	A	→	ICTを活用した授業改善や学習環境の整備(a・b・c・d・e・f)	①「学校評価アンケート」の「先生は、授業がわかりやすいように教え方を工夫している」に対する肯定的回答を90%以上にする。 ②ICTを活用して、個別最適な学習を充実させる。	・タブレットを用いた学習課題や、ひょうごがんばりタイム、テスト前や長期休業中の学習相談など、一人ひとりに応じた学習活動、学習課題を提供する。 ・授業のユニバーサルデザイン化(黒板に共通して明示するもの、プリント文字のフォントやサイズなど)を進め、学習の見通しや学習の足跡がわかる板書計画や授業の展開を図る。 ・調べ学習や意見交流、考察のまとめなどで積極的に端末を活用すると同時に、端末の使い方のルールやマナーを身に付けさせる。		
地域との関わりとキャリア教育	◆「全国学力・学習状況調査」では、「将来の夢や目標を持っている」と答える生徒の割合は、53.1%であった。キャリア教育や進路学習を充実させていく。 ○夏祭りなど地域の行事に参加し、地域との交流をもつことができた。 ○トライやるウィークでの体験を通して、自分の将来や地域の仕事について関心をもつことができた。	B	→	地域とのかかわりとキャリア教育(c・g)	①「全国学力学習状況調査」の質問調査における「将来の夢や目標を持っている」という質問に対して「持っている」と答える生徒を前年度以上にする。 ②トライやるウィークを通して、地域の仕事に関心を持ち、地域に対して興味や関心を持つ。	・夢や目標・志をしっかりと持ち、それを語ることができるように、キャリア教育や進路学習、トライやるウィークなど、将来について考える機会を大切に、将来や未来に目を向けさせる。 ・トライやるウィークで地域の職業体験や、ボランティア活動などを通して、地域のことに関心を持ったり愛着を感じたりできるようにする。 ・トライやるウィークを通して、自分の適性などについて考え、進路選択を進める。		

○「教員評価」は教員対象に実施した自己点検調査結果(0～4の5段階評価)の平均値
 ○「評価」は年間の取組みについて、4段階で評価
 A…十分に達成 B…おおよそ達成
 C…達成が不十分 D…ほとんど達成できず